

柳河城

筑後ノ國 弘長天皇

初代国主 田中吉政展



田中吉政肖像
東京大学史料編纂所蔵模写

令和3年 9月4日(土) ▶ 12日(日)

八女伝統工芸館ギャラリー

入場無料

福岡県八女市本町2-123-2 TEL:0943-22-3131

■開館時間 9時～17時(最終日は16時まで)

■休館日 9月6日月曜日

「柳川堀割物語」他 パネル展示

[特別展示] ●蒲池窯(土器風炉) ●鋳物師司(平井家文書)
●福島城の鯢 ●福島城下のジオラマ
●ちくご松山櫨復活委員会(眞櫨ろうそく)

主催／田中義照 株式会社九州蜂の子本舗 田中古政研究会

協賛／株式会社 理創

後援／八女市・八女市教育委員会・田中古政公顕彰会・水の会・蒲池堀割委員会

〈お問合せ〉一般財団法人 八女伝統工芸館 0943-22-3131

筑後国 田中吉政展

福岡県南部に位置する八女市。その中心市街地・福島(横町)は、古い白壁の町屋が並び、ふと江戸時代に時の旅に来たような気分になります。
この八女にはかつて福島城があり、その城を拡張構築し、その後大きく栄えさせたのが近代的な国づくり町づくりの第一人者「田中吉政」です。

吉政は、織田・豊臣・徳川と続く戦国時代末期の激動の時代、豊臣秀吉の重臣中の重臣として見事に生き抜き、慶長5年(1600)関が原の戦いで石田三成を捕縛した功により、初代筑後国主32万5千石の大名として柳川城に入りました。当時の福岡県は、筑前「黒田家」と豊前「細川家」と筑後「田中家」によって治められていました。八女の福島城は、矢部川から水を引き入れ三重の堀(総郭型構造)を巡らせ、そこに侍屋敷、寺院、町屋、職人町を形成しました。また、大川(有明海)までの23Kmに及ぶ人工の運河「花宗川」を整備し、船運を利用した流通経済を発展させ、商人や職人たちが集う筑後一賑わう町となりました。

田中吉政肖像
東京大学史料編纂所蔵模写



近江八幡市「八幡堀」

吉政は、今から約400年前、近江(滋賀県)三川村虎姫に生まれ、初めに宮部継潤に仕え頭角を現し、秀吉の甥、豊臣秀次(後の関白)の筆頭家老として仕えます。秀次が近江八幡城主となると、街と琵琶湖を結ぶ「八幡堀」開削や近江商人が生まれる元となる商人町を形成しました。天正18年(1590)に、岡崎城(愛知県)5万7400石の大名となると、防備のため7つの町を囲む「田中堀」や矢作川の築堤工事、また東海道を城下町に導き入れ「二十七曲」と呼ばれる屈折の多い道も造りました。街道を岡崎に引き入れたことにより城下町繁栄や特産品(八丁味噌・陶磁器など)のものづくりの基礎となりました。



岡崎城

筑後入国後の吉政は、本城である柳川城と領内に10支城『久留米、赤司、城島(久留米)・榎津(大川)・福島、猫尾(八女)・松延、江浦(みやま)・鷹尾、中島(柳川)』を配置し城を結ぶ軍事交通路を整備しました。現在の県道23号にはほぼ沿っている「久留米柳川往還」は、別名「田中道」とも呼ばれ人々に慕われています。

近江八幡時代や岡崎時代の経験により「土木の神様」と呼ばれた吉政は、慶長本土居(大川の酒見から高田町の渡瀬までの有明海沿岸32Kmに及ぶ潮止め築堤工事)、新田開発の奨励・指導、筑後川・矢部川の治水工事、花宗川・堀などの水利経路の整備、経済的基盤を安定・拡大・充実させ、水運の利の向上と軍事的な防衛ラインを長距離にわたり設置しています。筑後地方八女の伝統産業として現在も残る殆どの産業基盤(米、和紙、櫛ろう、い草、茶など)を造り地元に残る土器師司蒲池窯や、鋳物師司平井家、刀鍛師司下坂家などの技術者や石垣の職人「穴太衆」の技術が現在の筑後地方に与えた影響は計り知れません。



筑後国は初代「田中吉政」8年、二代目「田中忠政」12年の治政20年。忠政に子がいなかったことで改易となり、有馬久留米と立花柳川・高橋三池の三つの藩に分けられ、元和6年(1620)当地は久留米藩有馬豊氏の支配下となり、福島城は廃城となりました。田中吉政は「安心して暮らす国づくり」を成し遂げた壮大で有能で稀有な武将だったと言えます。

▲八女市横町町家交流館

江戸末期に建てられた元酒屋の建物を整備して、八女福島町の魅力や歴史を紹介。「田中吉政公」の巨大パネルが展示されています。同時にご覧いただければ幸いです。

八女市横町町家交流館
所在地/〒834-0031八女市本町94番地
開館時間/午前10時から午後5時
休館日/月曜日(月曜日が休日の場合その翌日)

